chapter 3.
-地域編-

「集落（シマ）」は、ともに笑い、助け合う、まるで大きな家族のような共同体です。互いに協力し合って成り立っていたこの形ですが、現代では少し風向きが変わってきたようです。これまでは当たり前だった宴会などの役割分担。改めて考える必要がありそうです。

シマの役割分担

まりこ(32)の場合。

……この物語の主人公。東京出身32歳。旦那はしまっちゅで最近島に帰ってきた夫婦。島特有の集まり「飲み会」に参加したはいいが・・・?

（漫画：あいき じゅん）

「結いの精神」が息づくシマジマ 慣行を見直して多様性の受け入れを

「奄美のいいところは？」という設問で必ず挙がってくるのが「人や地域のあたたかさ」。相互扶助の「結いの精神」が根付くシマ(集落）のあり様は、まさに誇るべき奄美の財産です。しかし一方で、時代は急速に変化し、人々の生活や考え方も多様化してきています。従来の仕組みや性別・年齢層に由来する慣行などについては見直しを行い、地域で暮らす多様な人が参画できるような地域社会の形成を目指す必要があります。

わきゃシマの現状と未来

こんなことありませんか？要注意チェックポイント！

- ☑ 役員は男性または世帯主に限定されている
- ☑ 集まりや行事で、飲食準備や片付けは女性が担当している
- ☑ 防災訓練は男性が中心で、女性や高齢者は見ているだけ
- ☑ 自治会の運営は決まった人たちが行っていて、その他の人が意見を言う場がない

地域のコミュニティがしっかりとしていて、「共助」が根付いている奄美のシマジマ。高齢化が進む今後は、集落コミュニティが担う役割はさらに大きくなってくるでしょう。

そんななか、この「シマコミュニティ」について、相反する2つの住民感情も。ひとつは、「結いの精神が残る地域」への強い魅力。（資料1 奄美大島の魅力とは？）もうひとつは、特に自治会の仕組みや性別・年齢層による慣習への違和感でした。（資料2 VOICE）魅力を感じながらも違和感を抱いている現状。この先、集落と私たちが歩む未来とはどんなふうになっていくのでしょうか。

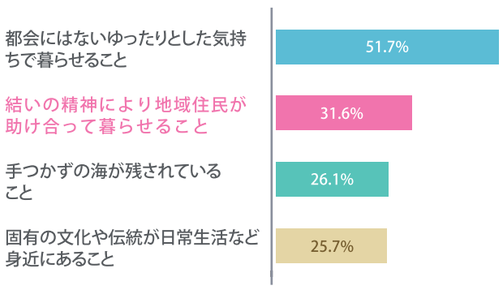
誰もが安心して支えあって暮らせる地域社会の実現のため、改めてこれからのことを考えてみませんか。

資料2 / VOICE-奄美市民の声

地域活動への参加の強制が強い気がする。もっと個人の生活も優先・選択できるようになってほしい（40代女性）／奄美(鹿児島）はいまだに男尊女卑にあると考えています（50代男性）／集落行事は女性、男性の役割は分かれていますが、特に私自身は不満はありません／地域の子ども会の役員で、シングルマザーだから無理だよね、と言われた／公民館での集まり事、料理の準備では普段触れ合うことのない年上の方から生活の知恵を学ぶ楽しい場…でもあるけど、陰口叩く場でもある。男連中は準備の段階から楽しそうに酒飲みながら…。この差はなんなの？／女性が地域で活躍するようになってきた。女性のほうが上手く柔らかく他人と接する事が出来ると思う。

※H29 奄美市男女共同参画に関する市民意識調査、
H30 ホンネを教えてくださいWEBアンケート（しーま）より

資料1 / 奄美大島の魅力とは?



※H27 奄美大島総合戦略推進本部「奄美大島人口ビジョン」アンケート結果